

小倉原西遺跡

(相模原市No.283 遺跡)

調査期間 20101116～継続中

所在地 相模原市緑区小倉

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中世
近世



作成日:20110331 更新:20111027

概要

本調査は、国土交通省相武国道事務所による、さがみ縦貫道路建設事業に伴う発掘調査です。調査地は小倉原西遺跡(相模原市No.283 遺跡)の西寄りの部分に該当します。

遺跡は相模原市域の北西部、JR線橋本駅の西方約5kmの地点に位置します。地形上は相模川右岸の河岸段丘上に立地し、この段丘を挟んだ南側には相模川の支流である串川が流れています。遺跡の海拔標高は120～123m程度を測ります。

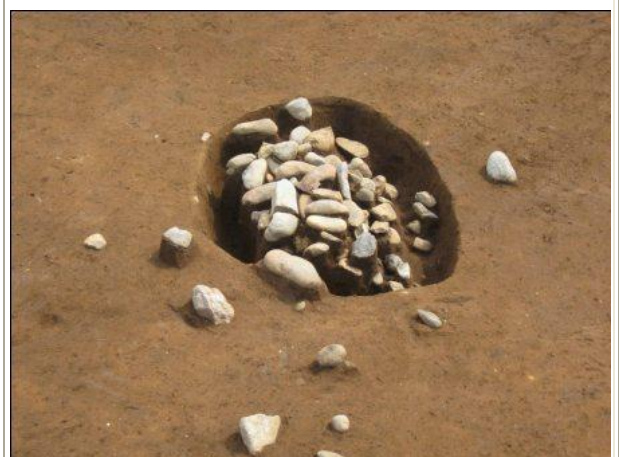
小倉原西遺跡では、1980(昭和 55)年に縄文時代の配石遺構が発見され、最初の発掘調査が行われています。以来、縄文時代を中心に複数の時代にまたがる遺跡として認識されてきました。今回の発掘調査は平成 22 年度より継続して実施しており、平成 23 年度の調査では、近世の耕作址や土坑墓群、古代の土坑・溝、縄文時代の土坑・集石・ピット等を検出しました。遺物は近世の陶磁器、縄文時代の土器・石器、旧石器時代の石器などが出土しています。

縄文時代の集石は底面がすり鉢状の掘り込みの中から、被熱した人拳大の礫がまとまって出土したものです。熱した礫と共に肉類等の食材を入れて蓋をし、蒸焼き料理をした痕跡ではないかと推定されています。

縄文時代の土器は、早期～後期の深鉢(ふかばち)の破片



▲ 発掘調査状況



▲ 縄文時代 集石

がみられ、中でも早・前期のものが多く認められます。また石器では、打製石斧(だせいせきふ)、磨石(すりいし)・敲石(たたきいし)、石鏃(せきぞく)などが出土しています。

旧石器時代の調査では、現地表下約3mの深度まで段階的なグリッド掘削を行っています。ローム層中の遺構と遺物の有無を確認したところ、相模野台地における第一黒色帯(いわゆるB1層)に相当する層の中から、黒曜石・凝灰岩の剥片やナイフ形石器等の石器集中地点を検出しました。

本発掘調査は、現地での発掘作業を今年の年末まで行う予定であり、その後は継続して出土品等整理作業へと移行する計画です。今後も小倉原西遺跡発掘調査の進捗に応じ、その実態を報告させていただきます。



▲ 旧石器時代 石器出土状況